

2010.3.19 「敵は鳩山内閣・小沢民主党だ 自民党よ 結束せよ！」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

自民党内で与謝野先生が公然と谷垣総裁を非難されたり、新党も視野に入れて活動していくという発言があったり、また舩添先生にも同じような発言があったりして、党内の騒動が大きく報道されています。私もそれぞれの先生方の主旨については賛同するところが多くありますが、そうしたことは政権奪回はかなわないと思うのです。1つ確認しておかなければならないのは、敵は谷垣総裁ではなく鳩山総理、小沢幹事長であるということです。勿論、自民党内の改革もしていかなければなりません。しかし今、自民党がしなければならないのは、国と国民生活を守るためにも1日も早く鳩山内閣、民主党政権を倒さなければならないということです。小沢幹事長の牛耳る民主党政権、政治責任を一切果たさそうとしない鳩山内閣が1日でも長く続けば続くだけ、日本の国益が損なわれます。まず、来るべき参議院選挙、ここで自民党が勝利をして参議院の過半数をとることが肝要です。その時に参議院だけでなく衆議院も解散に追い込み、もう1度国民に真を問う、そのような形にしなければならないのです。

そのためには、まず党内が一致協力し、後ろから弾を撃つようなことは止めるべきだと思います。しかし、長期的に考えていきますと、自民党の中でも様々な問題があるのも事実です。私が前々から申し上げていますように、自民党の1番大きな問題は、平成になってからの小泉構造改革路線、郵政民営化もその1つですが、これらが良かったのか、悪かったのか。悪かった所は素直に認め、そのことをもう一度政策の方針を撤回する。このことをしっかり議論し、国民への説明や党内の意思統一をすることが必要です。それがなされていなかったことが内紛の原因なのです。

そもそもこの構造改革だけではなく、戦後の自民党政治自体が、保守政党だと言ってはいるが、本当のところは保守的では無かったのではないか。現状肯定ではあるけれど歴史というものをいかにして次の世代に伝えてきたのか。歴史観の面でいうと、戦後の政治そのものが戦前の歴史を否定から始まっており、保守政党としての成り立ちが上手くいっていなかったと思うのです。

長期的、短期的視点の両方とも大切にしながら、今は1番の目下の敵は民主党、鳩山・小沢政権であり、これを共通の認識で党内を結束していかなければならないと思っています。

皆様方も今後とも御指導いただけますよう宜しくお願いします。ありがとうございました。